

令和7年1月定例記者会見

令和7年1月8日（水）午前11時00分～

<主な発表項目>

昨年の1月1日に地震があり、今年は普段の正月と違うように感じたが、幸いにも天候を含めて大変穏やかな年末年始であった。改めて、当たり前ということの素晴らしさを認識した方も多かったのではないかと思います。

また、今年は、新砺波市誕生20年を越えて初めての年である。いろいろな方から「砺波市は元気なまちだ」という評価をいただいているが、その流れを引き続き、さらに発展させ、しっかりと砺波市として一体感をもって着実に進んでいきたい。

除雪については、一斉出動はなかったが、待機や一部の地域での出動があった。

国や県において設置されている市内の道路監視カメラを市のホームページからも見られるので、外出前に活用していただきたい。

各地区の除雪委員会や除雪業者等と連携を図りながら、地域ぐるみによるきめ細やかな除雪作業に取り組み、市民の安全安心な生活の確保に万全を期したい。

○春を呼ぶチューリップ展について

チューリップ四季彩館では、1月30日（木）から2月16日（日）まで、2025となりみチューリップフェアのプレイベントである、「第39回春を呼ぶチューリップ展」を開催する。

春を呼ぶチューリップ展では、促成栽培で咲かせたチューリップ1万本（鉢花5,000本、切花5,000本）とプリムラなど、早春の花々を配置し、ひと足早い春の訪れを体感できる。

会場内には好評のミニSLが走り、子どもから大人までご家族で楽しんでいただける。

そのほか、期間を通してチューリップ切花の販売を行う。

なお、今回で8回目となる、インスタ(Instagram)フォトコンテストを行う。入賞者には、チューリップフェア招待券をプレゼントする。

また、インバウンドの来館者も増えており、サービス向上を図るため常設展の内容をスマートフォン等で聞くことのできる「多言語（日本語・英語・中国語）音声ガイド」の運用を1月30日から開始する。

○新年度一般会計予算編成について

新年度一般会計の予算規模については、流動的ではあるが、現在、財政課の査定段階では、230億円台後半であり、合併後最大であった令和6年度をさらに超える見込みである。

これは、特定の大規模プロジェクトによるものではなく、複数の要因によるものであり、会計年度任用職員を含めた人件費の増加や、物価高騰の影響が少なからずある。他の扶助費の増加にも対応していく必要があるなか、防災対策や、GX・DXの推進など、社会的要請に応える事業にしっかりと取り組んでいく。

また、歳入については、税制改正の行方を注視しなければならないが、現状では市税は増額、地方交付税も給与改定分の対応も含め増加されるものと見込んでいる。地方財政対策にも注目していきたい。